

2023年08月31日

## 2022年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人みつわ

代表者・役職名 氏名 代表・荒川千代美

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

地域全員で避難するための防災拠点整備及び研修活動

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

高齢者が暮らし慣れた地域で老後も生活していけるように、地域密着型の高齢者施設である宅老所として2005年に開設しました。現在は、別法人も立ち上げデイサービスセンターも併設し、地域での見取りも含めて、高齢者と地域の方々が相互に支え合い、豊かな暮らしを送ることのできる活動を目指しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

令和元年、令和3年と立て続けに被災を受けた久津具地区では、多くの方が在宅に避難をしたが、避難所の環境が悪いことや、着の身着のまま避難せざるを得ないことが原因だという方が多い。そのため、今後の避難を促すための環境づくりとしての防災倉庫設置や、多世代交流と兼ねた防災講座等を実施し、次の災害時に円滑に避難行動を行うことができるような環境を整えていく。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

#### ■防災ワークショップ実施と倉庫の設置

避難時に使用する衣類やおむつ、アレルギー対応食品などを、その方々の必要に併せてあらかじめ避難する場所の近くに置いておくための倉庫を設置する。単に倉庫を設置するだけでなく、倉庫の活用方法や、避難に際しての不安を解消するための工夫などについて、地域の方々に集まっていたいただき、意見を交換し合うようなワークショップも実施する。

#### ■地域の交流拠点居場所づくり

地域内外のつながりを促進していくために、地域の方々や多世代交流を行う場所を整備し、喫茶店としての機能を持たせるとともに、子ども食堂を兼ねた親子防災教室を開催し、いざという時の避難に関する知識やおいしい防災食を体験していただくなどの取り組みを実施する。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

カフェ活動は、9回実施。各回10名が平均で参加。カフェのうち、3回は防災をテーマにして実施。2回はパッキング、1回は地図を使った避難訓練を実施。また、防災倉庫として、公民館に棚を設置し避難が必要な方の個人防災BOXを置くことができた。事業を実施することによって、地域の方々のつながりの強化と防災の意識向上、実際に防災BOXを置くなどの対策を進めることができた。さらに、事業を通じて、防災BOX設置では、自治会長や民生委員の方などの協力を得ることができ、地域全体で防災の取り組みを進めていこうという体制が構築されつつある。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

防災意識は向上したものの、やはり実際に避難するとなると出足が遅く、自宅の2階に避難することを考えている人も多い。早期に避難することで身の安全や地域全体の安心・安全につながるということについて、さらに意識を向上させていき、早期に避難行動してもらえるように取り組みをしていく必要がある。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。